

地域とともにある
学校づくりのために

Community School

CS 通信

これまで発行した
CS通信や「コミュニ
ティ・スクール」に関
する情報はこちらへ



北海道 子ども地域支援

検索

《子ども地域支援グループHP》

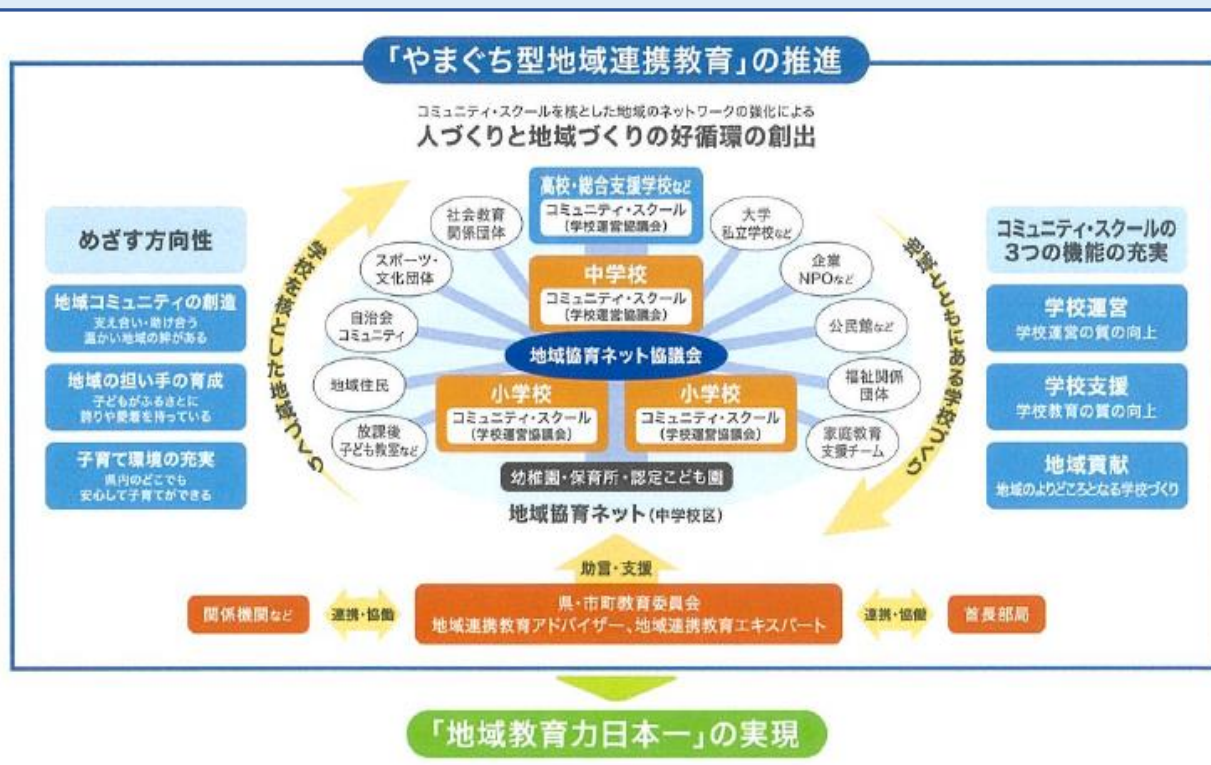
北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ

やまぐち地域連携教育推進フォーラム

去る12月14日(土)、「児童生徒とともに創る地域の未来」をテーマに、山口県健康づくりセンターにおいて「やまぐち地域連携教育推進フォーラム」が開催されましたので、その概要を紹介いたします。

■ 所管説明

山口県教育委員会



- 山口県では県内全ての小・中学校においてコミュニティ・スクールの制度が導入されている。(県立高校、総合支援学校についても令和2年度に全校導入予定)
- 学校を核とした人づくりと地域づくりの好循環が創出されるよう、「地域協育ネット」の仕組みを生かして、社会総がかりで子どもたちの学びや育ちを支援する「やまぐち型地域連携教育」を平成27年度から推進している。
- 本年度、県教委の取組で大切にしてきたことは、「全ての関係者が自分の言葉で『地域連携』を語る事ができる。」という点である。
- 児童生徒の自己肯定感の高まりや地域行事への参加の増加等、地域連携教育の成果は着実に表れている。次のステージに向けては、「児童生徒が地域連携教育の主役になっているか」という視点がカギになると考えている。
- 地域連携教育の成果については、子どもの姿で捉えることが大切であるとされており、全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙調査の設問「地域や社会をよくするために、何をすべきか考えたことがあるか」への回答状況に着目していきたい。

■ 実践発表

周南市立三丘小学校

- 三丘（みつお）地区は人口約 1,600 人の地域。
- 地域の少子化に強い危機感をもった地域コミュニティが「三丘ずっと子どもがいるまちプロジェクト」を組織。空き家調査等も実施。
- 本プロジェクトに三丘小学校も協力し、希望する児童が三丘縁日や駄菓子屋を運営したり、まちづくり塾に参加したりするなど、地域の子育てをより魅力的にする取組を積極的に推進。

美祿市立厚保中学校

- 厚保（あつ）中学校区は、厚保小、厚保中の2校。
- 小中それぞれの特徴を生かしたCSを進め、小中連携でCSがつながり、「あつマロンネット」で地域ともつながる仕組みを構築。
- よりよい学校を目指して地域の大人と考えを出し合う場や、生徒総会で地域行事への参加をテーマに地域貢献について話し合う機会を設定するなど、生徒の主体的な取組を促進。

山口県立下関北高等学校

- 下関北高校は地域唯一の県立高校。「まちづくりの推進力になる高校づくり」を目指し、地域貢献型キャリア教育を推進。
- 高校生の力は地域の力であり地域の活性化のためにも高校のCSは必要と認識。
- CSの仕組みを生かし、地域探究で「歴史・伝統」等の6コースによる学習や、生徒会活動で小中学生の登校路での見守り活動等、地域貢献の取組を実施。

山口県立山口総合支援学校

- 山口総合支援学校は住宅地にあり、学校や社会福祉施設、企業等の社会資源が豊富。
- 校務分掌に「コミスク部」を位置付け、各分掌のつながりや、関係機関とのつながりなど、「『つながり』の創出」をテーマとしてCSを推進。
- 地域住民の本校に関する認知度の向上を図るため、文化祭での地域アトラクションや地域と連携した学校防災活動などを実施。

田布施中学校区統括コーディネーター

- 田布施町は県東部に位置し、人口 15,000 人の自然豊かな町。
- 「子どもたちにふるさとへの愛をもってもらいたい」という思いをもって活動。
- 「学校と地域をつなぐ」役割を担い、①学習支援ボランティアの調整、②放課後子ども教室の企画運営、③読み聞かせや紙芝居など「おしゃべり箱おはなしの会」等を高校と連携し実施。

■ 講演「地域との協働による魅力ある学校づくり」 ～未来を拓く若者と地域を育てる教育とは～

講師：岩本 悠 氏

- 島根県隠岐島前高校では、「学級減の危機」を「教育改革の好機」として、また、まちづくり・人づくりの「盲点」を「拠点」として考え、「高校魅力化プロジェクト」を始動。コーディネーターを校内に配置し、地域と学校・生徒の対話と協働で共通ビジョンを策定するなど、協働体制チームを整備し推進した。
- 学校が小規模化する中であって、「地域課題は絶好の『教材』」として捉え地域を舞台に課題発見解決に挑戦するプロジェクト学習を展開。また、全国から意志ある生徒を募集する「島留学」を実施し、「異質性・多様性」を持ち込むことによる学校の活性化や、留学生と地域をつなぐ「島親制度」も創設した。
- 地元高校への進学率の上昇や人口の社会増減の反転など「人の流れ」のほか、祭で神輿を出せる集落の増加など「地域活力の復興」等、変化が見られた。
- 高校魅力化に当たっては、コーディネート機能と協働体制の構築や、地域課題解決に挑む探究的な学びの充実などがポイントとなる。
- 「高校魅力化評価システム」を開発したので、魅力化のプロセスや成果等を可視化できる。



【担当から】実践発表では、児童生徒も登壇し、地域で活動している様子を堂々と発表していました。「全ての関係者が自分の言葉で地域連携を語る」一子どもたちも地域との関わりを自分の言葉で表現できることは素晴らしいことだと感じました。（担当：子ども地域支援G 主査 吉村公孝）